

都立葛飾商業高等学校 令和6年度 年間授業計画

教科	商業	科目	ビジネス基礎	学年	1	単位	3
教科書(出版社)	『ビジネス基礎』 (実教出版)						
副教材等(出版社)	『ビジネス基礎 準拠問題集』 (実教出版)						

1. 学習の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける。	ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決できるようになる。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む。

2. 学習内容

学期	単元	授業内容、	時数
1	第1章 商業の学習とビジネス 第3章 経済と流通の基礎 東京のビジネス	・ 商業を学ぶ目的と学び方 ・ 商業の各分野と職業 ・ 電卓の使い方 ・ 経済のしくみとビジネス ・ 社会の変化とビジネスの発展 ・ 経済活動と流通 ・ 東京の経済活動	36
2	第4章 さまざまなビジネス 第7章 ビジネス計算 第6章 ビジネスと売買取引 第5章 企業活動の基礎 東京のビジネス	・ ビジネスの種類・小売業・卸売業・物流業・金融業・情報通信業 ・ ビジネス計算の基礎 ・ ビジネス計算の割合 ・ 売買取引の手順・代金決済 ・ ビジネスと企業・マーケティングの重要性・資金調達 ・ 財務諸表の役割・企業活動と税・雇用 ・ 東京のビジネストレンド	45
3	第2章 ビジネスとコミュニケーション 第8章 身近な地域のビジネス 東京のビジネス	・ コミュニケーション・ビジネスマナー・情報の入手と活用 ・ さまざまな地域の魅力と課題・地域ビジネスの動向 ・ これからの東京のビジネス	24

3. 評価規準・評価方法

評価の観点	評価方法	A（良い）	B（概ね達成）	C（不十分）
【知識及び技能】	授業状況 定期考査 課題 提出物	課題に対して 80% 以上達成している。	課題に対して 50% 以上達成している。	課題の達成状況が 50%未満で不十分で ある。 課題に取り組んで いない。
【思考力、判断力、表現力等】	授業状況 定期考査 レポート 課題	習得した知識・技 術を活用し課題を発 見し、課題に対して 科学的な根拠に基づ き、よりよい解決方 法を提案している。	習得した知識・技 術を活用し課題を発 見し、課題に対して 科学的な根拠に基づ き表現している。	習得した知識・技 術の活用が不十分で あり、科学的な根拠 をもとに表現するこ とができていない。
【主体的に学習に取り組む態 度】	授業状況 グループ活動 レポート	自らビジネスにつ いて学ぶ態度やビジ ネスの創造と発展に 責任をもって取り組 もうとしており、組 織の一員として自己 の役割を認識して当 事者としての意識を 持っている。	自らビジネスにつ いて学ぶ態度やビジ ネスの創造と発展に 責任をもって取り組 もうとしている。	自らビジネスにつ いて学ぼうとしてい ない。

都立葛飾商業高等学校 令和6年度 年間授業計画

教科	商業	科目	簿記	学年	1	単位	4
教科書(出版社)	新簿記(実教出版)						
副教材等(出版社)	反復式 簿記問題集 全商3級(実教出版)						

1. 学習の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
個人企業における簿記に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、簿記の基本的な仕組みについて理解できたか。ビジネスの諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用しているか。	各取引におけるいろいろな記帳についての解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けているか。	個人企業における簿記に関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けているか。

2. 学習内容

学期	単元	授業内容、	時数
1	第1編 ・簿記の基礎 ・資産・負債・純資産と貸借対照表 ・収益・費用と損益計算書 ・取引と勘定 ・仕訳と転記 第2編 ・取引の記帳(その1) ・現金・預金などの取引 ・商品売買の取引 ・掛け取引 ・手形の取引	・記帳の基礎となる簿記のしくみ ・資産、負債、資本の意味及び貸借対照表の作成 ・収益、費用の意味及び損益計算書とその技法 ・取引の仕訳及び転記の方法とその手順 ・基本的な取引の記帳方法について ・現金、当座預金などの取引と、それらに関する帳票の記帳方法について ・3分法の記帳方法 ・仕入帳、売上帳、商品有高帳の記帳方法と売上原価の計算方法 ・売掛金元帳、買掛金元帳の記帳方法 ・約束手形、為替手形のしくみについて	48
2	・有価証券の取引 ・その他の債権・債務の取引 ・固定資産の取引 ・個人企業の資本の取引 ・販売費及び一般管理費と税金の取引 第3編 ・決算(その1) ・決算整理(その1) ・8桁精算表 ・帳簿決算 第4編 ・会計帳簿と帳簿組織 ・会計帳簿 ・伝票	・有価証券のしくみとその取引の仕訳 ・前払金と前受金、仮払金と仮受金等、債権と債務の関係について ・固定資産の意味と種類 ・追加元入れ、引出金とその仕訳 ・販売費及び一般管理費の意味と記帳方法 ・個人企業に課せられる税金の記帳方法 ・決算整理の意味とその必要性について ・各決算整理事項の仕訳 ・8桁精算表がどのように機能しているか ・損益計算書、貸借対照表の作成と会計情報の重要性について ・決算整理の意味とその必要性について。 ・各決算整理事項の仕訳 ・損益計算書、貸借対照表の作成と会計情報の重要性について ・各帳簿の締め切りの方法について ・分課制度と帳簿組織との関連について ・3伝票を用いた場合の起票や集計方法のルール	60

3	個人企業のまとめ ・全商３級形式別問題 ・全商３級検定問題 第６編 ・決算整理（その２） ・８桁精算表	・仕訳、伝票、帳簿、文章・計算、決算の各形式別問題演習 ・検定試験模擬問題への取組 ・費用・収益の繰り延べと見越し ・有価証券 ・減価償却（間接法）、定率法	32
---	--	--	----

３．評価規準・評価方法

評価の観点	評価方法	A（良い）	B（概ね達成）	C（不十分）
【知識及び技能】 個人企業における簿記に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、簿記の基本的な仕組みについて理解できたか。ビジネスの諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用しているか。	授業への取組 課題 小テスト 考査	簿記３級程度のどのような取引についても仕訳でき、それを基に試算表や財務諸表を作成できる。なお、正答率が 90%以上であること。	簿記３級程度のやや複雑な取引について理解し、仕訳できる。なお、正答率が 70%以上であること。	簿記３級程度の複雑な取引について理解できてない。正答率が 60%以下である。
【思考力、判断力、表現力等】 各取引におけるいろいろな記帳についての解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けているか。	授業への取組 課題 小テスト 考査	簿記３級程度のどのような取引についても仕訳でき、それを基に試算表や財務諸表を作成できる。なお、正答率が 90%以上であること。	簿記３級程度のやや複雑な取引について理解し、仕訳できる。なお、正答率が 70%以上であること。	簿記３級程度の複雑な取引について理解できてない。正答率が 60%以下である。
【主体的に学習に取り組む態度】 個人企業における簿記に関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けているか。	授業への取組 課題 小テスト 考査	簿記３級程度のどのような取引についても仕訳でき、それを基に試算表や財務諸表を作成できる。なお、正答率が 90%以上であること。	簿記３級程度のやや複雑な取引について理解し、仕訳できる。なお、正答率が 70%以上であること。	簿記３級程度の複雑な取引について理解できてない。正答率が 60%以下である。

都立葛飾商業高等学校 令和6年度 年間授業計画

教科	商業	科目	情報処理	学年	1	単位	3
教科書(出版社)	最新情報処理 Advanced Computing (実教出版)						
副教材等(出版社)	令和6年度 全商情報処理検定 模擬試験問題集3級 (実教出版) 令和6年度 全商ビジネス文書検定 模擬試験問題集3級 (実教出版)						

1. 学習の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会において情報を扱うことを実務に即した形で理解するとともに、必要とされる技術を身に付ける。	実社会において情報を扱う上での課題を発見し、解決までの道筋を自らの判断で創造的に解決する態度を身に付ける。	実社会において情報を扱うものとして能力の向上を目指して自ら学び、情報を適切に学ぶことを主体的かつ協同的に取り組む力を身に付ける。

2. 学習内容

学期	単元	授業内容、	時数
1	【課題】 ・コンピュータシステムの概要 ・情報通信ネットワークの仕組みと構成 ・インターネットの活用 ・情報セキュリティの確保 ・情報処理の重要性 ・情報モラルと法規 ・問題の発見と解決の方法 ・ビジネスと統計 ・関数を利用した表の作成 ・ワープロの操作と入力方法	・コンピュータの基本的な機能と構成を理解し、ハードウェアとソフトウェアの種類と機能について理解する。 ・情報通信ネットワークの種類と機能を理解し、適切に活用する態度を身に付ける。 ・情報通信ネットワークを利用したビジネス情報の検索と活用方法について理解する。 ・情報化社会に参画するために個人が身に付けるべきセキュリティ管理の方法について理解する。 ・社会で利用されている情報システムの例や、ビジネスにおける情報活用の実際を学ぶことにより、コンピュータを利用した情報の処理や活用の重要性を理解する。 ・情報を取り扱う上で守るべき法規の必要性和、その概要を理解する。 ・事象をモデル化し、シミュレーションを行う基礎的な技術及びアルゴリズムの知識を身に付ける。プログラムとして表現する基礎的な技法を用いた問題の発見と解決について学習する。 ・表計算ソフトの基礎的な知識と技術について学習する。 ・基本的な操作や計算式及び関数について理解し、目的に応じて適切な表の作成する技術を身に付ける。 ・ワープロソフトの利用に関する知識と技術を習得する。特にキーボードを用いた入力に関する技術を身に付ける。	36
2	【課題】 ・関数を利用した表の作成 ・グラフの作成 ・ワープロソフトを利用した文書の作成	・基本的な操作や計算式及び関数について理解し、目的に応じて適切な表の作成する技術を身に付ける。 ・グラフを構成する要素の名称と意味について学習する。 ・表計算ソフトウェアを利用して各種グラフの作成方法を問題演習で身に付ける。 ・ワープロの利用に関する知識と技術を習得させ、文書の構成、構成要素の配置、文書作成の要領について理解する。 ・基本的な社内文書や社外文書を取り上げて、作成に関する知識と技術について理解する。	45

3	【課題】 ・情報処理の重要性 ・プレゼンテーションの技法 ・ビジネスにおけるプレゼンテーション	・情報の各分野の知識を確実に身に付けるよう演習問題等に取りくむ。 ・課題を解決する手段としてインターネットを活用した情報の検索・収集の技術を身に付けるとともに情報の価値や正確性について理解する。 ・プレゼンテーションソフトウェアを活用した実習を通して、目的や形態に応じた適切な形で、資料の作成などの発表準備から発表、相互評価までの一連の活動を行う。 ・チームで協力しながら課題を解決することの意義を理解し、活動ができるよう態度を身に付ける。	24
---	--	---	----

3. 評価規準・評価方法

評価の観点	評価方法	A（良い）	B（概ね達成）	C（不十分）
【知識及び技能】 実社会において情報を扱うことを実務に即した形で理解するとともに、必要とされる技術を身に付ける。	定期テスト	・各学期の考查において正答率が7割以上である。 ・タッチメソッドができ10分間で450字程度の入力ができる。 ・出された課題に対して、表計算ソフトやワープロソフト等を活用し正答率が7割以上である。	・各学期の考查において概ね5割以上正答する。 ・概ねタッチメソッドができ10分間で300字程度の入力ができる。 ・出された課題に対して、表計算ソフトやワープロソフト等を活用し正答率が5割以上である。	・各学期の考查において正答率が5割未満である。 ・タッチメソッドが不十分であり、10分間での入力数が300字未満である。 ・出された課題に対して、表計算ソフトやワープロソフト等を活用し正答率が5割未満である。
【思考力、判断力、表現力等】 実社会において情報を扱う上での課題を発見し、解決までの道筋を自らの判断で創造的に解決する態度を身に付ける。	課題解決 調査研究 発表	・現状を改善するための課題を発見することができる。 ・課題に対して解決方法を見出すために積極的に調査・研究ができる。 ・発表のための資料作成に主体的、積極的に取り組み、受け手が理解しやすい資料の作成、発表ができる。	・与えられた課題を適切に判断することができる。 ・課題に対して解決方法を見出すために調査・研究ができる。 ・発表のための資料作成に取り組み、受け手が理解しやすい資料の作成、発表が概ねできる。	・与えられた課題を適切に判断することができない。 ・課題に対して解決方法を見出すための調査・研究が不十分である。 ・発表のための資料作成が不十分であり、受け手が理解しやすい資料の作成、発表ができない。
【主体的に学習に取り組む態度】 実社会において情報を扱うものとして能力の向上を目指して自ら学び、情報を適切に学ぶことを主体的かつ協同的に取り組む力を身に付ける。	授業状況 出欠 提出物 アクティブラーニング	・授業に積極的に参加し、自らの能力の向上を目指す態度を常に見ることができる。 ・出席率9割以上 ・課題に対して主体的に取り組む求められた水準を超えて課題にとり雲ことができる。 ・協同的な態度で課題に取り組む周囲と協力しながら課題を解決する態度が常に見られる。	・授業に積極的に参加し、自らの能力の向上を目指す態度を概ね見ることができる。 ・出席率7割以上 ・課題に対して積極的に取り組み求められた水準の課題を満たすことができる。 ・協同的な態度で課題に取り組む周囲と協力しながら課題を解決する態度を概ね見られる。	・授業に積極的に参加し、自らの能力の向上を目指す態度があまり見られない。 ・出席率7割未満 ・課題に対して消極的であり、求められた水準の課題を満たすことができない。 ・協同的な態度で課題に取り組む周囲と協力しながら課題を解決する態度があまり見られない。

※具体的な評価方法等

- ① 課題について、提出期日内に指示された通りの内容で提出できているか。
- ② 発表等において、自分の考えを他人に的確に伝えることができたか。
- ③ 検定試験の結果は加点項目とする